

身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用)

総括表

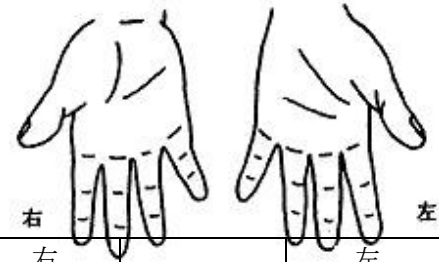
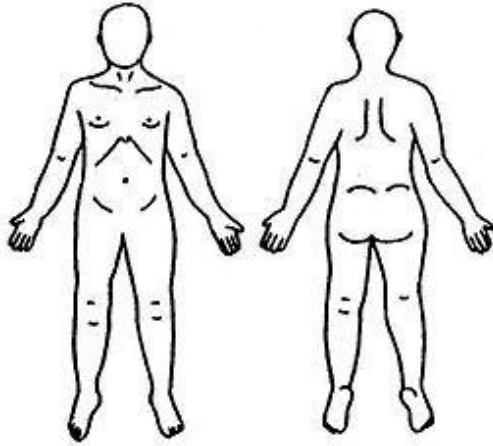
氏名	明治 大正 昭和 平成	年	月	日生 ( 歳)	男・女
住所					
① 障害名(部位を明記)					
② 原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他( )				
② 疾病・外傷発生日	年	月	日	場所	
④ 参考となる経過・現症(エックス線写真及び検査所見を含む。)					
障害固定又は障害確定(推定) 年 月 日					
⑤ 総合所見					
[ 将来再認定 要・不要 ] [ 再認定の時期 年 月 ]					
⑥ その他参考となる合併症状					
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。					
年 月 日					
病院又は診療所の名称					
所 在 地					
診療担当科名					
科 医師氏名					
印					
身体障害者福祉法第15条第3項の意見 [障害程度等級についても参考意見を記入] 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に					
・該当する ( 級相当) ・該当しない					
注 1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。					
2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」(別様式)を添付してください。					
3 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分について、お問い合わせする場合があります。					

肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○でかこみ、下記空欄に追加所見記入。）

- 1. 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- 2. 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- 3. 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 4. 排尿・排便機能障害：なし・あり
- 5. 形態異常：なし・あり

参考図示



右		左
	上肢長cm	
	下肢長cm	
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
	大腿周径cm	
	下腿周径cm	
	握力kg	

計測法 上肢長：肩峰 → 橈骨茎状突起  
 下肢長：上前腸骨棘 → (脛骨) 内果  
 上腕周径：最大周径  
 前腕周径：最大周径  
 大腿周径：膝蓋骨上縁上 10 cm の周径  
 (小児等の場合は別記)  
 下腿周径：最大周径

×変形    ■切離断    ▨感覚障害    ≡運動障害

(注)関係ない部分は記入不要

動作・活動(補装具等使用しない状態)

ひとりでうまくできる場合には…○    ひとりでできてもうまくできない場合は…△    ひとりでは全くできない場合には…×

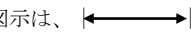
4 の場合    5 秒以内にできる……………○ 10 秒    "    ……………△ 10 秒ではできない……………×		12 と 13 の場合    30 秒以内にできる……………○ 1 分    "    ……………△ 1 分ではできない……………×	
1 つまむ (新聞紙が引き抜けない程度)	右	12 かぶりシャツを着て脱ぐ	
	左	13 ワイシャツのボタンをとめる	
2 握る (丸めた週刊誌が引き抜けない程度)	右	14 ズボンの着脱(どのような姿勢でもよい)	
	左	15 靴下をはく(どのような姿勢でもよい)	
3 タオルを絞る (水をきれの程度)	両手	16 すわる(正座、横座り、あぐら、脚なげ出し(このような姿勢を継続する))	
4 とじひもを結ぶ	両手	17 椅子に腰掛ける	
5 はしで食事をする	右	18 寝返りする	
	左	19 歩く	屋内
6 スプーンで食事をする	右		屋外
	左	20 片足で立つ	右
7 顔を洗う (顔に手のひらをつける)	右		左
	左	21 立ち上がる	
8 コップで水を飲む		22 階段をのぼる	
9 ブラシで歯を磨く		23 階段をおりる	
10 排便の処理をする(臀のところに手をやる)	右	24 深くおじぎをする	
	左	25 公共の乗り物を利用する	
11 背中を洗う		26 歩行能力	m

関節可動域 (ROM) と筋力テスト (MMT) (この表は必要な部分を記入すること。)

筋力テスト ( )	関節可動域	筋力テスト ( )	関節可動域	筋力テスト ( )
( ) 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈 ( ) 頸 ( ) 左屈	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	右屈 ( )
( ) 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈 ( ) 体幹 ( ) 左屈	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	右屈 ( )
右 ( ) 屈曲	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	伸展 ( ) ( ) 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	左 ( ) 屈曲 ( )
( ) 外転		内転 ( ) 肩 ( ) 内転		外転 ( )
( ) 外旋		内旋 ( ) ( ) 内旋		外旋 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 肘 ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 回外		回内 ( ) 前腕 ( ) 回内		回外 ( )
( ) 掌屈		背屈 ( ) 手 ( ) 背屈		掌屈 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		母 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 中手指節 (MP) ( ) 伸展		示 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		中 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		環 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		小 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 近位指節 (PIP) ( ) 伸展		母 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		示 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		中 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		環 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) ( ) 伸展		小 ( ) 屈曲 ( )
( ) 屈曲	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	伸展 ( ) ( ) 伸展	90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	屈曲 ( )
( ) 外転		内転 ( ) 股 ( ) 内転		外転 ( )
( ) 外旋		内旋 ( ) ( ) 内旋		外旋 ( )
( ) 屈曲		伸展 ( ) 膝 ( ) 伸展		屈曲 ( )
( ) 底屈		背屈 ( ) 足 ( ) 背屈		底屈 ( )

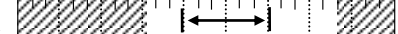
備考

注:

1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
2. 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
3. 関節可動域の図示は、 のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(ξ)を引く。
4. 筋力については、表( )内に×△○印を記入する。  
×印は、筋力が消失または著減(筋力0、1、2該当)

5. △印は、筋力半減(筋力3該当)  
○印は、筋力正常またはやや減(筋力4、5該当)
6. DIP その他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。
7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(×) 伸展  屈曲 (△)